

20年のお恵み

MJM東京が始まって20年になるのではないかと、先日の6月、7月の例会で話題になりました。NY、MJMは、それ以上の時を刻んでいるわけです。海外にいる日本人達、移動の激しい駐在員家族も含めて、日本語での聖書の学びが続いていることも大きな驚きですが、そこで播かれた種が、帰国してからも超教派の小さな群れで20年もの間続いていることは、更に大きな驚きをもって神様のお恵みを感じます。

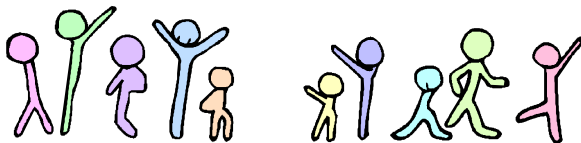
私の元には以前教区フェスティバルでまとめられたTEKNAのファイルがあり、そこにMJM東京が始まって少しして発行された第1号があります。TEKNA第1号は1992年10月に発行されていますので、このTEKNA自身は20年には満たないのですが、ここで第1号の巻頭に書かれた景山恭子さんのメッセージを掲載させていただきますと思います。

(阿部記)



道端に咲くホトトギスの花に日本の秋を見えています。5月にNYから東京に戻って、すぐ神学院で学生生活を始めました。東京とNYの差を考える暇もなく暮らしていました。でもMJMのことは良く心に浮かびます。リターニーがなかなか集ることができない、アンケートを送っても回収できない、そんな悩みを帰国前から聞いていました。MJMって一体なんだったんだろう？あれはNYにいた時の良い思い出のひとつ・・・に数えられてしまうのではMJMの存在する意味が半減してしまいます。私はMJMは建物を持たない教会だと思っています。どんな形であれ、それに連なる人々がどこにいても神の愛を分かちあえる、それがMJMのMJMたる所以だと思うのです。でも、現実にはリターニーもあちらこちらに散らばっているのでNYのように共に聖書を学んだり、講師を招いての勉強会も実現は容易ではありません。当面は月報の発行で連絡をとりあい、分かち合いの場にしていけたらと思います。

私自身、日々の学びの中で新しい気付きが沢山あり皆様とお話したい事が山のようにあります。「原稿をお送り下さい」と申し上げると堅苦しいので何か一言、思い立った時にはがきを書いてお送りください。日本は高く暮らしていく「人が多くて歩けない」そんな一言でも歓迎です。Let's speak up! お勧めの本の紹介などはうれしい限りです。この月報のタイトルは「TEKNA」ギリシャ語で、子供達と言う意味です。私達は皆、神の子供たち大人は時々、自分が子供であることを忘れてしまうのだけれど私達は幾つになっても神様の子供たち。



例会報告

9月の例会

9月例会

日程：9月21日

出席者：森泉弘次、澄江、坂下、元村、三浦

テーマ：キリシタン問題その1

初の日本伝道でめざましい開拓的働きをしたフランシスコ・ザビエルはどのような人か。

講師：森泉弘次先生

聖フランシスコ・ザビエルは1506年4月7日、バスクのナバラ王国のザビエル城で、城主の末っ子として生まれました。母語はバスク語で、スペイン語圏に近く、スペイン語も幼少期から話した。

1925年夏の終わり、パリ大学聖バルバラ学院（コレジオ）に入学し聖職者になるべく、神学生として厳しい修行に入った。1530年無事に修士号を取り、学部学生の指導を始めた。高収入を保証された高位聖職者となるための資格証明書と願書を提出していたザビエルだが、親友のイニゴの徹底した献身性と周到さに圧倒されて、救霊のために清貧と献身の生涯に入るという決断をした。

ザビエルはイエズス会の宣教師として伝道活動し、日本へ来た。

2回目は2月の例会です。（三浦記）

10月の例会

出席者：森泉弘次、澄江、阿部、深川、坂下、三浦

話し手：景山

2009年4月から聖公会神学院でスピリチュアルディレクターとして、神学生の指導にあたっている景山恭子さんの神学院内の住まいに今年もおじゃましました。

恭子さんは聖公会新聞にシリーズで、2009年12月から2010年12月まで「Shall we dance?」というタイトルでコラムをお書きになっていました。今回はそれを読んでもうございました。とてもいいお話でしたので、テクナのクリスマス号にクリスマスの時の原稿を記載させていただくお約束をしました。

日常の中で感じたことをとても読みやすく、そして心に残る言葉（メッセージ）で表現されていました。もっと読んでほしかったのですが、時間がきてしまい残念でした。恭子さんは朝、シャワーを浴びている時や何気ない日常の中で閃きを神様から頂くそうです。

私も、恭子さんのように、神様からのメッセージを受けとめられ

るような、感度の良いアンテナがほしいと思いました。

(三浦記)

11 月例会

11月26日

テーマ：降臨節を迎えて準備をしましょう。

イエス様が生まれた当時のユダヤ社会

マタイ伝、ルカ伝から

資料：ケネス・ベリ―著森泉弘次訳

『中東文化の目からみたイエス』

出席者：森泉弘次、澄江、元村、佐藤光子、三浦

イエスの誕生物語（ルカ伝2章1-20）を輪読して、まず我々の共通認識（伝統的な理解）を話し合いました。そして、ケネス・ベリ―の『中東文化の目からみたイエス』の本を読み、いままで誤った解釈を我々はしていたのではないのかと気づく。

中東文化はもてなしの文化でもあり、故郷に戻ったヨセフは、親族の家でもてなされて、マリアは家族の部屋で安心してイエスを出産されたに違いない。なぜなら、羊飼いたちは若い家族を別の場所に移させることをせず、帰っていったということは、すでに聖家族に差し伸べられていた以上のもてなしをすることはできない、と彼ら自身感じていたことを意味しているからだ。当時の代表的の中東村落は、飼いやぶを備えたワンルーム式の家で、家畜は日中は外に夜は家に入れて家族と一緒に過ごすことが一般的であった。

ぜひ、『中東文化の目で見たイエス』の本を皆さん読んでみてください。

（三浦記）

MJM 12月 クリスマス会

12月 クリスマス会

出席者：森泉弘次、澄江、佐藤光子、柳生、山添

坂下、元村、三浦、アンデレ教会から池司祭

片岡、郷司、斉藤

会場：アンデレ教会の牧師館集会室

今年のクリスマス会は午後からでしたので、お腹が空いていることもあり和食のお弁当を頂くことから始まりました。

食後は光子さんにピアノを引いていただき、森泉弘次さんにお話をさせていただき、『キャロルと聖書の朗読』でクリスマスを祝いました。

お茶の時間では、アンデレ教会の副牧師の池司祭がギターを弾き、日本の歌や、韓国の歌を披露してくれました。とてもお上手でした。最後に皆でプレゼント交換をして、和やかなうちに終わりました。

（三浦記）



MJM東京 2011年

1月例会

1月21日（金） 10時30分より 三鷹教会

「名もなき信仰者たち」 列王記下 5：1-19a

お話：三鷹教会 平池芳樹牧師

出席：森泉夫妻、佐藤光子、三浦万都美、山根弘子

この箇所を、「無名の少女の信仰の物語」＝「少女の信仰」として読む。敵国の奴隷となっている名がない少女、その少女が重い皮膚病を患って苦しみの中に居る敵国の主人を救おうとしている。これはマタイ5：43-48でイエス様の言われている姿である。マルコ5：1-20ではここにいる心の病を癒してもらった人（格拉サ人）がイエス様を述べ伝えた人。そしてこの人にも名が無い。ヨハネ：4：7-29でのサマリアの女、この人にも名が無い。などなど。

少女もグラサ人もサマリアの女も惨めな姿で登場するが、信仰者として、我々が問われている姿である。神さまに名前を覚えられているから名が無い。私達の名前、おこないは人間の世界では消えて行くが永遠の世界（神の世界）では覚えられる。

担当：山根弘子

2月例会

2月

テーマ：フランシスコ・ザビエルについて パート2

出席者：森泉弘次、澄江、三浦、佐藤泉

1529年、ザビエルはイニコ・デ・ロヨラと出会い大回心をし司祭となり清貧、貞潔、聖地巡礼の誓願を立てる。奉仕活動を通してキリストの謙遜を学ぶ。苦難に満ちたインド渡航、宣教、そして日本人アンジロウとの出会いまでが今回の学びでした。

ザビエルはポルトガル商人から日本人は知識欲が旺盛なので宣教したらインドと比較にならない大きな成果が出るであろうと聞いていたそうですが、今後、日本に宣教と舞台が変わる為、益々興味深い学びとなりそうです。

また、一個人として反省すべきこと（＝私自身、人に熱心に伝道したこともなく、教会生活も挫折し母教会を離れ10年近くになります。）が多くあります。

命がけの宣教のおかげで今日の日本の教会と信者がいる訳ですが、やはり天国への道は狭き門です。仕事の為、当分学びが出来ないのが残念です。

（佐藤 泉 記）

3月例会

3月25日 10時半～

管区事務所

植松 功氏によるテゼの会

出席者：森泉弘次、森泉澄江、佐藤光子、新生教会より山本さん、廣内さん、辛島佐和子さんとお子さん、三浦万都美、阿部園子

MJMに参加させていただいて；

廣内 光正

MJMの働きについては、佐藤光子さんから時々伺う機会がありましたが、。アメリカで組織されたものが、日本において自主的な集いとして長期間、維持存続していることは、関係する方々の並々ならぬ奉仕の結果であろうと尊敬の念をもっておりました。

以前、新生教会で例会があった際、一度参加させて頂きましたが、私とはかけ離れた世界のことのよう思えましたこの度、3月25日(金)牛込聖バルナバ教会で行われた例会に久しぶりに出席させていただきました。佐藤光子さんから、植松 功氏が講師で「テゼの祈り(黙想と祈り)」がテーマであるとお誘いいただいたからです。

新生教会では、昨年11月28日「一日修養会」の一環として、植松 功氏を講師としてお招きし「讚美とお話」のひとつきをもちました。その時受けた「不思議な安らぎ」が忘れられず、佐藤さんに、「植松氏がお話される機会があれば教えてください。」とお願いしていたところ、今回の機会が与えられたのです。期待通り、今回も「不思議な安らぎ」は与えられました。牧師の説教や教会での聖礼典にはどこか緊張した雰囲気がありますが、植松氏のゆったりとしたテンポのお話とギターに合わせて歌う短い讚美の歌は、そのまま祈りであり、溶け込んで行くような安らぎを覚えるのです。

東日本大震災直後であった為、冒頭「なぜ良い人にも悪いことが起きるのか？」ということについて、クシュナーや7世紀の聖イサクの見解などの紹介がありました。そして、「テゼでは、毎日、日本の被災者のために祈っている。」ということをゆっくりとした口調でお話になりました。後日、これと全く同じ質問を日本の被災した子供がローマ教皇に質問したニュースがテレビで報道されていました。教皇の答えは「分かりません。しかし、神さまは、私たちを愛して下さいます。」でした。これは、「イエスは、私と共に私の弱さの内に、イエスは、私と共に私の闇の内に」と歌い、「福音とは、共にいること、共にいてくださること」と話された植松氏の話と符合しているなど感じたものです。

「祈りには力がある。祈りには力がある。

忙しくて祈る時間がない時ほど祈るべきです。

多くの祈る人が、見えないけれどいる。その人たちの祈りによって現在は

保たれている。ネガティブなパワー(悪魔の喜ぶこと)は、瞬間に拡散するが、良いことは伝わらない。それを発掘して伝えていくことが大切です。」とおっしゃり「キリストより始めなさい！教会よ！」と締めくくられたことが印象深かった。機会があれば、または是非参加させて頂きたいと願っています。

4月例会

4月15日12時～

大森聖アグネス教会

十字架の道行の礼拝・聖餐式

出席者：森泉弘次、森泉澄江、塚田央子、三浦万都美、阿部園子

ここ数年、イースター前の大斎節に「十字架の道行」の礼拝をアグネス教会の皆様と共にMJM東京の皆様でお捧げすることになっています。神崎司祭も毎年MJM東京の皆様がいらしてくださるのを楽しみにしております。

昨年は聖堂の修繕中でホールにかけられた絵を見ていつものように十字架の道行を行いました、皆様のお祈りに覚えていただいた聖堂は5月に修繕を無事に終えることができました。今年は新しい聖堂に皆様をお迎えすることができました。住宅街の中の可愛い教会です。また、皆様と大斎に十字架の道行の礼拝をお捧げしたいです。

5月例会

5月例会報告 担当佐藤光子

日時：2011年5月27日 10:30～12:30

場所：新生教会

講師：法亢聖親牧師

発題：イエスのユーモアとアイロニー

参加者：阿部園子 森泉弘二、澄江 元村多恵 三浦万都美 朴 佐藤光子

聖書Ⅱテサロニケ2：16、17

「わたしたちの主イエスキリスト御自身、ならびに、私たちを愛して、永遠の慰めと確かな希望とを恵みによって与えてくださる、私たちの父である神が、どうか、あなた方の心を励まし、又強め、いつも良い働きをし、良い言葉を語るものとしてくださるように(Ⅱテサロニケ2：16)心が広くゆとりがあり相手を生かす愛のある言葉が良い言葉である

1) ユーモアとは？

神様から人間が頂いている賜物の1つで愛から生まれる自分自身の弱さをも笑うことの出来る自由を持つ自分を縛っている束縛から解放する力を持つ

*旧約のユーモア

箴言にもさめた目と暖かい心を持ったソロモン王のユーモアある裁きの箇所がある 例：どちらの女が赤子の本当の母親か 列王記上3：16

*新約のユーモア

1) イエスの姦通の女におけるユーモア

慣習では「罪を目撃したものがまず石を投げよ」とあるイエスはこの律法の形を踏まえ内容を全く違ったものにして「罪のないものがまず石を投げよ」とおっしゃり律法から離れず女を悔い改めから救い許し生活の場にお返しになった イエスのユーモアは問題を本質に戻し人々に気づかせ考え直させる

2) 論争家としてのイエス

ファリサイ派との論争では激しく厳しい態度で臨む 「ファリサイ派の人達は天国を開きただけでなく入ろうとする人も入れない」「ファリサイ派の言うことは聞きなさい、しかしすることは見習ってはいけません」ここにもユーモアとアイロニーがある 正しく理解した民衆の間では笑いを引き起こしただろう 大切なのはイエスは彼らに対して決して憎悪の気持ちからでなく悔い改めて神に立ち返

ることの呼びかけをなされたことである 応報主義から解放された右の頬と左の頬に代表される愛敵の例えは強靱な精神がなければ出来ない

☆エピソード

始めて説教を受け持った若い伝道師の話
しっかり準備をしていたにも関わらず会衆を前にしてあがってしまい頭が真っ白になり説教題の「私は父のところへ行く」と言うイエスのことばを3回繰り返すのがやっついで講壇を降りてしまった その日の司会の主任牧師は恥じ入って小さくなっている伝道師を振り向き「〇〇さん、お父さんのところに着いたらよろしくね」と言った その一言で伝道師は救われ、会衆も安堵した この主任牧師には慈愛の父の心があった この言葉を聞いた伝道師は恥ずかしさに勝るうれしさが染みとおったことだ

多分イエスの周りはユーモアと笑いに満ちていたのではないか
相手と同じ立場に立つものだけが（上から目線でなく）ユーモアを語ることが出来る

~~~~~

教会を辞してからランチは近くのいつものうなぎやさんで次回の打ち合わせ等話し合い楽しく頂くことが出来た 感謝

#### 6月例会

6月24日 10時半～  
聖公会聖アンデレ教会にて

出席者：笹森田鶴司祭、森泉夫婦、阿部、三浦、佐藤光子、  
（アンデレ教会）宮崎、郷司、元村

#### 「天使の話」

創世記28章10-17.

皆さんは「天使」と、言われると、どんなイメージをお持ちでしょうか？

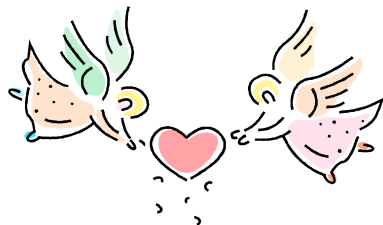
- ・子供達の守護神・・・？
- ・神様の御使い・・・？

「子供の頃から見ている絵の中に天使がいて、私にはいつも身近で大好きな存在でした・・・」と、語る笹森司祭の言葉に導かれていくと、天使は聖書にもヨーロッパ絵画の中にも たくさん出てきました。

いつもはなんとなく登場している天使達ですが、改めて、「天使」に目を向けてみると、様々な天使が姿を現し、出会いがいっぱいの1時間半でした。

お奨め本・・・「50の天使」

(元村記)



#### 7月総会

7月15日2時～

管区事務所にて

出席者：森泉澄江、森泉弘次、坂下、三浦、塚田、阿部、

2011年度を振り返って

1年間毎月1度の例会が滞りなく終了しました。今年度は3.11の震災がありイースター号も皆様の思いをというチョット今までと異なったTEKNAになりました。

巻頭でも触れたように、今年はMJM東京が、このTEKNAも来年は20年になります。これまでのTEKNAに目を通していくと本当に数多くの方々 MJM東京へのご奉仕によって20年の時を刻むことができたのだと実感しております。ここ数年は三浦万都美さんのメール配信や報告などの細かいご奉仕は特筆すべきものでしょう。

色々なご事情で最近 MJM東京への参加が出来ない数多くの方々も、お祈りのうちに覚えてくださっております。その皆様のお祈りが MJM東京を大きな支えになっております。

献金もクリスマスのMJMNYに加えて、マリア教会や震災への義援金にお捧げすることができました。

感謝です。

#### 2011年9月からの担当予定

9月9日（金）10時半より

管区事務所・会議室にて

キャンドル会 聖所の箇所は後ほどメールで

10月 上田亜樹子司祭にお話を聞く 担当：塚田

11月25日（金）10時半より

管区事務所・会議室

植松 功氏によるテゼの会

12月10日（土）クリスマス会

聖アンデレ教会・牧師館 1階

2012年

1月 三鷹教会 担当：山根

2月 担当：坂下

3月 担当：山本

4月6日 受苦日礼拝 大森聖アグネス教会

4月 森泉先生によるキリシタン問題Ⅲ

5月 担当：佐藤光子

6月 笹森司祭にお話を聞く

担当：元村

TEKNA

クリスマス号 久下倫生牧師

イースター号 辛島佐和子

8月号 阿部園子

会計 元村多恵

連絡 三浦万都美



まだまだお暑いですがお体ご自愛下さい